

丹沢勘七ノ沢敗退ノヒルは十六匹

山行実施日(六月七日)

鈴K、上D他

(鈴K) ヒルにおびえながら県民の森に着くと、雨が酷かった。雨の中でテントを立てたが、ビショビショになり、気持ちの良いものではなかったが、中に入り落ち着つけた。雨は降り続いてしたが、朝には上がると信じてシュラフに入る。

7日の朝、曇っていたが雨は上がっていた。思い思いに、朝食を食べたり、朝の支度をしたりしてしていると、次々に車が上がってきた。あわてながら沢の準備をする。A班とB班のメンバーと共同装備、無線の確認をして出発をする。ヒルを気にしながら二俣につくと、早速、日谷川さんが目

つていくのかもしれない。いよいよ入渓である。新緑に囲まれた穏やかな河原を分け入っていく。A班が先行し、Cに着く。出だしが微妙で、ちよつと高いところにスリリングがある。H高さんがうまく越えていくが、滑ればドボンである。まあ、落ちても水に浸かるだけだから心配はないのだが、最初に登りで妙な緊張感が高まる。ザイルで確保して次々に登り、ドボンはなかった。B班はK坂さんが先行をして、1人目の確保をして登ったところで、A班は出発をした。E2、E3とへつたり、ザイルで確保して登ったりと、沢登りを楽しんだ。9時、B

班はすぐ後ろにいることはわかっていたが、2時間ごとに無線を入れることになっていたので応答をするものの反応はない。忘れていたようだが、これも練習である。堰堤を越えるのはなかなか嫌らしい。3つ目も堰堤の下でA班とB班が合流し、メンバーが混ざって堰堤を越え始めた。集団が大きくなると、緊張感が緩んでしまう。人が多いということでも安心感がうまれ注意が散漫になる。そんなときに、クライミングが上手な島Dさんに注意がうすくなり、先行していたH竜さんとは異なった滑りやすい方に登ってしまったことを注意できずに5mほど滑落した。滑って途中で足がついたものの引つかかるように体が剥がされ頭から滑り落ちていった。ただザックが体と岩との間で緩衝材にな

ってスピードが若干落ちたことが幸いしたこと、腰や肩などを擦って、砂利状の地面には頭から落ちたように見えたが、肩から地面についたので、首には影響がなかったようだ。それにしても、本人もメンバーも動揺した。しばらく休み様子を見たが、大事を考えて尾根にトラバースして下山にすることにした。しっかりと登りた踏み跡を辿るとすぐに登山道に出られた。二俣に着くことには、島Dさんは元に戻った感じで恐縮していたが、大きなケガにならず、いい経験ということで終わることができた。山北駅前の福祉健康センターさくらの湯で温泉に入って体を休めて帰路についた。

(上D) 6月7日午後9時30分 小田急線渋沢駅で及Kさ

んと合流し鈴Kさんの車に拾
ってもらおう。テン場に近づく
につれ雨となつてゆく。

すでにH竜車・K坂車チーム
がテント設置して前夜祭の賑
やかな声が聞こえてくる。鈴
K車チームもテント設置しH
高さんテントで酒盛り。
及Kさんの手料理、燻製でひ
と時を過ごす。

雨も本降りとなり、お酒もな
くなり明日に備えてお開きと
なる。

6月8日

鳥のさえずりに起こされる。
深夜の強い雨は小降りとなつ
ていた。

朝食・準備して7時駐車場出
発 7時30分入渓

水流の抵抗を久しぶりに感じ
る。思ったほど水温も冷たく
ないので一安心。岩の滑り具
合をそろそろ確認しながら歩
く。

7時40分 E

初っ端に行くわす滝に不安を
感じる。

鈴Kさんがロープを出してく
れる。途中の残置スリングも
使いながら登る。

E・E・Eと濡れたくない。
落ちたくない！の一心でしが
み付き、ロープ・お助け紐出
してもらいながらなんとか登
る。

緊張の後は補給！行動食・お
茶で緊張をほぐす！

Eの滝に行く前に、堰堤を4
か所乗り越える。

途中の堰堤で、B班先行とな
る。

H竜さん、K坂さんが登る。
目を離れたとき誰かの声。

いつもアクシデントはスロー
モーションである。

頭を下にして身体・ザックを
擦るように、島Dさんが落下。
一瞬空気が凍り付く。

幸い大きなダメージも無さそ
うで歩ける、とのことで下山。
H竜さんお勧めの銭湯で汗を
流し、反省会をする。

危険は紙一重であると改めて
思う山行だった。

今回は初めて沢山のヒルと遭
遇した沢登りとなった。

(H竜)今シーズン初めての

沢。WEBで山ヒルすごいよ
との記事で今までは吸血され
ることなく水際で防止してい
た。

初級の沢とてあなどれない。
まだ沢慣れしていなくEで
トップロープで登ろうと思っ
たがロープ張ってくれない。

仕方なく緊張して登るも中間
あたりの安定した所でロープ

張ってくれたK坂さん遅い。

E、Eと高度はあるがホール
ドたくさんあり楽しめた。意
外と堰堤が途中何度もあり緊

張する。中間の堰堤5m位の
左から登る所で自分がB班リ
ーダーだったが最初に私が登
り。次のニューフェース島D
さん中間位から滑落、頭の方
から落ちたので心配する。E、
Eとロープ垂らしたが華
麗に登るのでつい安心してし
まった。外傷無いがとりあえ
ず沢登りは中止する。

島Dさんザックの荷物を分
担し大事を取り下山する。自
分も手袋脱ぐと右手中指と薬
指の股の所に丸々太ったヒル
が「ギャー」H高さんすかさ
ず塩を降りかけてくれた。足
に手に4匹のヒルが自分の血
を狙っていた。

初めて吸われた。みんな丹
沢は気を付けよう。島Dさん
は大事に至らず良かった。今
後はみんなが安全に登るには
考えなくてはならない。温泉
で今回の沢の反省と問題を話

し合った。

(I村)勘七の沢は14年前に一度入溪しています。記憶は都合良く、楽しかった事ばかりで、ヘツリの緊張感や水没などはすっかり忘れていました。

この沢ならメンバーに迷惑を掛けずに行けそうと、参加させてもらいました・・・

処が、いざF1の前に立つと記憶にあった様相と違う・・・

どうも記憶はF5とF6がすり替わっている。F3のへつりに失敗し、見事に水没してやっと思ひ出す。そうだった・・・へつりの下手なメンバーに、リーダーがひと泳ぎしてお助けヒモを出してくれたっけ。シューズは購入してから、一度もフェルトソールを替えていなかったなので、当然靴先はへたっており、スタンスが決

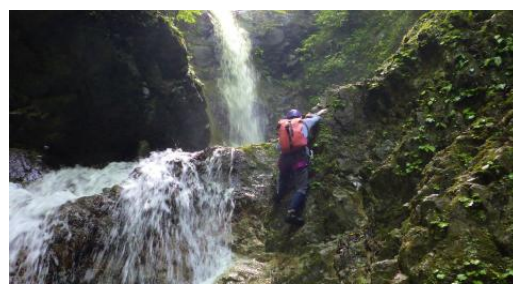
まらない。怖い怖い・・・それでもまた、楽しい思い出だけが残るでしょうね。



F1の登り



集合写真



F3

メンバー：10名/A鈴K、H高、上D、及K、I村/BH竜、K坂、島D、H谷川、
O川

ルート：表丹沢県民の森～二俣～勘七沢廻行(大滝手前)～二俣～県民の森

日日夜発2015年6月7日(日)

日程：6/6(土)20:00川越～21:40 渋沢駅～22:30 県民の森BP

6/7(日)BP～7:18 二俣～7:35F1～8:22:F2～8:42F3～9:20F4～9:50 3つ目の堰堤下～
10:52 堰堤上～11:00 尾根～11:34 二俣～12:06 県民の森一帰埼

丹沢・勘七の沢感想

〇川

フェースブックでスーさんから沢のお誘いがあり参加表明した。今季初めての沢となる。多くても4〜5名と思っていたが、いろいろな事情が絡み合い、なんと10名もの大所帯になったのは想定外で驚いた。

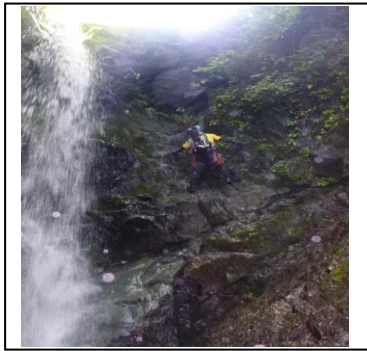
（さすが沢の神スーさんの人柄か…）

前夜3台の車（H竜車・K坂車・鈴K車）に便乗して移動。テン泊場に着く頃には雨に降られた。すでにH竜組はすでにテントを張り終えて宴会中。スーさん組も到着。雨が降り続けているので、各テント内で宴会となる。

H竜さんが、他テントを

彷徨し略奪した。特選「上D燻製」にはお酒がすすんだ。翌朝は雨も上がり沢日和となる。準備の際に、ヒル対策品のお披露目会となるが結論的には塩である。

揃った所でスーさんから
の注意事項等の訓示後、
A・B班に分かれ渡渉口に移動する。



水流の左側を沢やH高さ
んリードで登る。さすがで
ある。ロープをセットして
もらい各自登る。私は今季
初の沢岩で悪戦苦闘となる

が登りきる。F2を過ぎF3のヘツリでは、まだ体が硬直しておぼつかない動きである。どうもクライミングジムでの効果が発揮していない。

F4も無事通過。連続する堰堤ではカチで登るが最後は適したホールドがないため、お助け紐を要求した。

（一本休憩の際に、H竜さんが指の間にヤマビルが付着して出血していた。初めて生で拝見できた。さすがH竜さん持っているものが違う。被害者第一号である。私も下山の際、靴に一匹付着して大方の参加者が被害にあっていた。さすが丹沢山系である）

連続する堰堤で、B班が先行してしまう。最後の堰堤はH竜さんが登り、2番

手島Dさん、3番手H谷川さんが途中で動けなくなりロープの検討をしている最中に、動いた島Dさんが約4mから滑落してしまう。大事には至らぬ様子であるが、諸々考慮して沢は中止にして下山することにした。

今回は思わぬ展開であるが、沢だけでなくとも滑落は起こり得ることであり、今後の登山活動に生かせるように肝に銘じたい。

又機会があればスーさんの沢に参加して青い火を見てみたいものである。久しぶりの沢山行に参加できたことに感謝します

勘七の沢感想文

H竜

今シーズン初めての沢。WEBで山ヒルすごいよと

の記事で今までは吸血されることなく水際で防止していた。

初級の沢とてあなどれない。

まだ沢慣れしていなくF1をトップロープで登ろうと思ったがロープ張つてくれない。

仕方なく緊張して登るも中間あたりの安定した所でロープ張ってくれたK坂さん遅い。

F2、F3と高度はあるが

ホールドたくさんあり楽しめた。意外と堰堤が途中何度もあり緊張する。中間の堰堤5m位の左から登る所で、自分がB班リーダーだったのが最初に私が登り。次のニューフェース島Dさんの中間位から滑落、頭の方から落ちたので心配する。

F1、F2、F3とロープ垂らしたが華麗に登るのでつい安心してしまった。外傷は無いが、とりあえず沢登りは中止する。

S田さんザックの荷物を分担し大事を取り下山する。自分も手袋脱ぐと右手中指と薬指の股の所に丸々太ったヒルが、「ギャー」H高さんすかさず塩を降りかけてくれた。

足に手に4匹のヒルが自分の血を狙っていた。初めて吸われた。みんな丹沢は気を付けよう。S田さんは大事に至らず良かった。今後はみんなが安全に登るには考えなくてはならない。温泉で今回の沢の反省と問題を話し合った。

勘七沢沢登り感想文

島D

F4までの滝はどうにか登ることができた。その後3つの堤が続き、その一つをHさんが登り始めた。上り詰めは左の岩が迫っていて、登り易そうに見えたので、少し冒険してその左岩を登ろうと考えた。登り始めてみると、手はあるのだが足場が無い。

狭い空間に右足を置き、その上に左足を重ねようとするがクライミングシューズと異なり沢靴をうまく操作できない。困ったなと思った瞬間、足が滑り岩から手が離れてしまった。ふわふわとした感じが一瞬あり、どんと衝撃を感じた後は、

できるだけ頭と体を丸めて落ちた。HIさんが駆けつけ、意識があるかどうか話しかけるのが聞こえ、大きな体の痛みも感じなかった。助かったと安堵した。

リュックサックが岩の衝撃を緩和してくれたのと、落ちた場所が、岩場でなく砂利の平地だったのが幸いした。滑落直後は動機が激しく、呼吸数も多かった。休んでいる間に、腹式呼吸で呼吸と気持ちを整えた。

まさか自分が落ちるとは考えていなかったが、やはりそれなりの原因がある。沢登りの方法にも慣れていないのに、自分の技術を過信して、能力以上の無理をして登ったことが大きい。

沢登りは大きな危険が伴

うものだからこそ、楽しむ
ためには安全に登って、無
事に降りてくることが大切
になる。

うぬぼれていた私に、大
きな試練を頂いた。これか
らは、安全に登るといふ心
構えをしつかり持とう。

一緒に下山したメンバー
の皆さんには様々なお心遣
いを頂きました。また、冷
静に事故状況を分析し、温
かい言葉をかけて下さった
リーダーに感謝します。